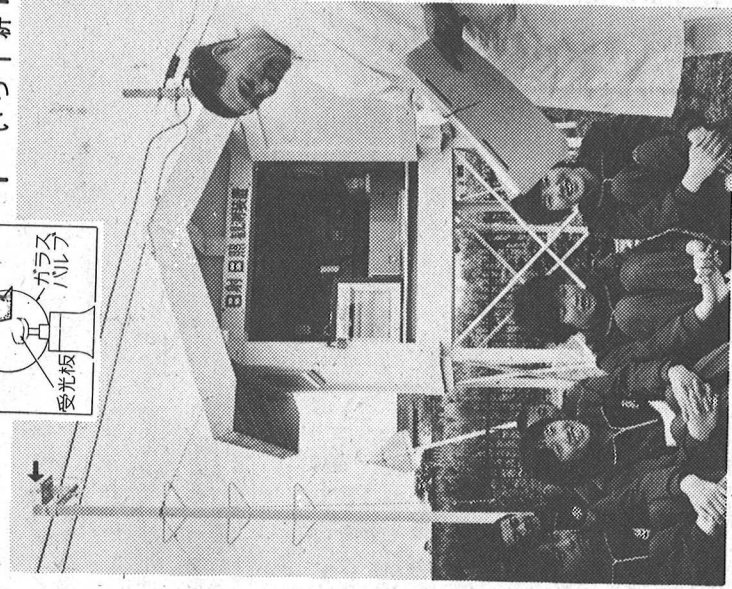
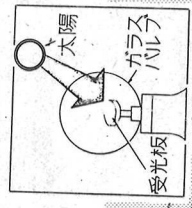


太陽エネルギーを開發するんだ

地域産業発展にひと役かう明野中の氣象観測

観測後、口野先生の分析をきく。左の棒の上に受信器(受光板つき日射計)がのこっている。



間に何度の太陽エネルギーが放射されたか)と積算日射量(地表面一平方センチあたり、一時間に何度の太陽エネルギーが放射されたか)を測する。そして、コンヒーターがはじき出した数字を数字にあらわすテープ処理も力を入れる。

日本一とわかった日照時間

データをまとめて「年報」を発行

いま、太陽放射量が注目されているが、日照時間が長いところ有名な山梨県北巨摩郡(いまぐん)明野(あきの)村でも、明野中学校の気象観測委員会のメンバーが日照時間と太陽放射エネルギーなどを熱心に観測。観測データを、村の気象条件を知ろうと役立ち、この日の太陽放射利用や農業などの地域産業発展のための資料にした。地方の人たちも関心を寄せている。

明野村は、山梨県の北部、放射エネルギーを測定するたきや岳(たかやがけ)山とくぬぎ山(くぬぎ)山との間に面したゆるやかな谷間にひろがる、人口四千九百人の純農村地帯。むかしから雨量が少なく、全国的に日照時間が長いところ。明野村では、おそろしく有名だ。村のキャッチフレーズは「太陽とまじりの村」。

村では、ローカルエネルギーを開發しようと五十五年四月、明野中に気象観測所を設置した。観測所には、太陽の日照時間、放射エネルギーの測定に時間をかけ、日射量の測定に時間をかける。日射量は瞬間日射量(地表面一平方センチあたり、一分間に何度の太陽エネルギーが放射されたか)と積算日射量(地表面一平方センチあたり、一時間に何度の太陽エネルギーが放射されたか)を測する。そして、コンヒーターがはじき出した数字を数字にあらわすテープ処理も力を入れる。

この三月、五十五年八月から五十六年七月までの一年間の観測結果を「年報」として一冊の本にまとめた。その観測結果をまよとみる。〈日照時間〉年間総日照時間(全国平均は、千九百九十二時間)に対して、明野村は、二千七百九十七時間、一日平均の日照時間は七・七時

間。日照時間が一番長い地域は、これまで富士山頂の千四百九十四時間、明野はこの記録をぬき、日本一となった。

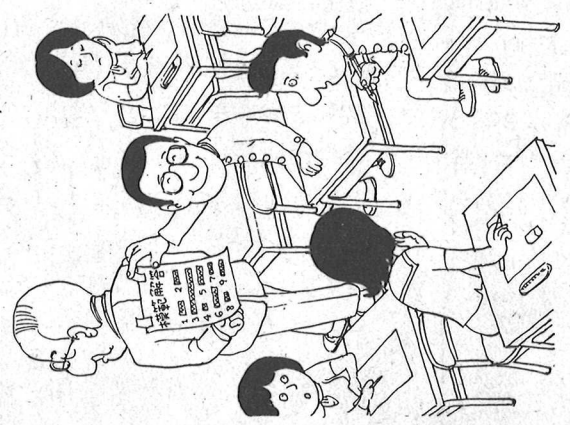
〈日射量〉明野村の地面一平方センチあたり(ゆびの爪の広さ)に放射される太陽エネルギーは、一日平均三百七十七・一ワット。観測期間十二か月の最高日射量は、五十六年五月で、一日あたり四百四十ワットだった。

〈気象条件〉快晴、晴れの日は、二百二日、一年間のうち五五%が晴れた。曇りも霧も雨も雪もあつた日は、三十四日間。

この本は、村役場の協力で五部発行され、地元の人たちにもられた。明野村は、トラス・トマ、ダイコなどの農産物産をもちにしている農家が八〇%をしめ、天候に大いに左右される。このため、気象観測委員会の年報は「地元の農業産業発展させるためにも、絶対に読まねば」と、村の人たちの間で大評判。また、ローカルエネルギーの基礎資料ともなること注目されている。



畑国男のバッテリー学園



あの手この手の中間試験...

「定期観測日は、まい週月曜日。気温、風向、湿度、雨